

豪雨被害が全国で相次いでいることを受け、金属屋根メーカーの川上板金工業所（琴平町）は、防水性能を高めた新商品の製造に乗り出す。強風に強い自社ブランド「クローザーシリーズ」などに対し、雨漏りを防ぐ加工用の専用装置を新たに導入、さらに風水害に強い製品としてアピールしていく。

耐風屋根加工 豪雨にも強く

クローザーシリーズは屋根が強風で飛ばされたり、積雪によって倒壊したりする被害を踏まえて2010年から順次発売し、これまでも4度グッドデザイン賞を受賞。現在は、大型の物流倉庫や商業施設、事務所、住宅などに適した3種類を製造、販売している。

同シリーズは風に強い一方、雨対策に課題があった。独自の立体構造に加工した金属板の端同士をかみ合わせて屋根の設置工事を行っているが、この結合部分に

わずかな隙間が生まれるため、近年全国で被害をもたらしている「想定外の豪雨」が発生した場合には建物内部に雨水が漏れ出す恐れがある。

新たな加工では、立体構造に加工した後、かみ合わせの部分に不燃性の接着剤（ホットメルト）を塗布する。この金属板同士を結合させると、ホットメルトが隙間を埋めるので豪雨の際にも雨水の浸入を防ぐことができるという。

ホットメルトの塗布装置3台を計1500万円で導入した。現在、試験的に稼働しており、2020年1月から本格生産を予定。まんのう町内の2工場に常時配置するのに加え、残りの1台は屋根の設置現場に持ち出して活用する。

川上正城社長は「気象が年々激しくなっている中、新加工によって『災害に強い屋根』として差別化をしていく」と話した。



防水性能をさらに高めるため、金属板にホットメルトを塗布する装置（左側）
=まんのう町

川上板金工業所（琴平）

新商品製造へ装置導入

wide ワイド
KAGAWA